■研究発表論文

石川県輪島市大沢の生活地名と空間構造の関係

A Study on the Relationship between Place Names with Life and Spatial Structure of Inhabitants in Osawa, Wajima, Ishikawa, Japan

本多　秀行*　　荒井　歩**

Hideyuki HONDA　　*Ayumi ARAI*

Abstract: Place names with life are defined as “names for land or space that are internally shared by the resident population in daily life”.The purpose of this study is to examine the spatial structure of villages on cultural landscape. By employing place names with life, we investigate the characteristics of distribution patterns on land uses. In the present study, we gathered and organized place names with life in Osawa, a traditional village in Wajima City, Ishikawa Prefecture, Japan. Results show ninety-one (91) place names with life. We then analyzed the village spaces having place names with a focus on topography and land use, and classified them into six (6) types, an easy slope with rivers on either side, a steep slope, planation surface that is surrounded by hills on two sides, *yatsu* on a small scale, planation surface that faces toward the sea, coastal sea area. The results clarified the characteristics of village spaces having place names as well as the spatial structure in the study location. We also discussed the possibility of using place names with life in the light of classifications on cultural landscape.

Keywords: *place name, spatial structure, land use, cultural landscape, Wajima City*
キーワード：地名，空間構造，土地利用，文化的景観，輪島市

１．研究の背景と目的

近年，生業に基づく地域固有の景観を保全することの重要性が指摘され[1]，日本では2004（平成16）年の文化財保護法の改正により「文化的景観」が文化財の新しいジャンルとして規定された。篠原（2009）は文化的景観を「表出された景観」と表現し，景観を守るためにはその景観を支えている人間の土地との関わり方について言及する必要性を指摘している[2]。具体的には文化的景観保存調査において「本質的な価値の把握」を目的する「景観単位の区分」，「構成要素の特定」，「景観単位と構成要素の相互の有機的関係の把握」を実施する必要がある[3]。

「景観単位」とは，①地形・植生等の自然，②土地利用の歴史，③地域の生活または生業により形成された現在の土地利用，に基づきある一定の特徴を示す区域を指すものである[3]。2011（平成23）年9月現在，重要文化的景観として29件が選定されているが，選定地における「景観単位」の区分状況は多様である[4]。ツバキ林・棚田といった特定の生業の場を景観単位とした選定地[5]，地形・植生，生業に関連する構成要素の状態を基本に景観単位を細かく区分した選定地[6]等が存在する。区分の現状を鑑みると，自然環境と土地利用単位区分の関係分析における客観的指標の必要性がうかがえた。

文化的景観地には，居住者が土地を利用する際に地域を区分するために使用してきた旧来からの地名が現存する。地名は，日常的に用いる共通の呼称として，人間の営為，活動に対応した土地との関わり方の指標と捉えることができる[7]。そこで本研究は，地名を指標とした集落の空間構造の整理が，文化的景観保存調査に必要とされる「景観単位」の把握手法に活用できるのではと考えた。

従来，地名を対象とした研究は民族学，地理学，建築学，造園学等の分野で数多く行われてきた。笹谷ら（1985，1990）や寺門（1990）の研究は，空間言語としての地名に着目し，村落・集落空間の構成を明らかにした[8][9][10]。しかしこれらの研究は，村落・集落空間の形成原理の追求を目的とする。山崎・重村らは，1983年に「生活地名」の概念を提示し，生活地名を指標として生活空間の特徴解明を目的とする一連の研究を展開している[7][11]。本研究では，山崎らが定義した「日常生活圏のなかで，居住者集団の内部で共有している土地・空間に対する呼称」である生活地名を活用し，文化的景観地における空間構造の把握を目的とする。さらに文化的景観保存調査において生活地名を景観単位の区分指標として活用する可能性を検討した。なお，本研究の目的や地名の一般的な分類や解釈をそのまま特定の地域に用いることは適切ではないことを考慮し，地名の語源分析は割愛した[7]。

２．研究の方法

（１）対象地の選定

「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」（2003）において二次調査対象に選定された石川県輪島市大沢集落を本研究の対象地とした[12]。大沢集落は石川県輪島市の北西部に位置し，人口213名，世帯数81戸（2005）の60歳以上が人口の56%を占める集落である。居住地は日本海に接して立地し，その後背には急峻な地形を活かした耕作地が約4.5㎞にわたり続いている。大沢集落は日本海からの特異な季節風への対策を施しながら生活を営み続けてきた。居住地全体を囲むように設置されている防風柵「間垣」も対策のひとつである[13]。伝統的間垣の壁体材には「ニガタケ」と呼ばれるメダケが用いられ，集落内にはニガタケ（メダケ）の供給地が点在する[14]。里山里海の資源を活かした半農半漁の生活による文化的景観が評価されている[15]。

（２）生活地名の採取

生活地名および生活地名に対応する場所（以下，生活地名の場所）と範囲を文献調査およびヒアリング調査から整理した。土地区分の最小単位を表す字名は公図・公簿，村史，市史から，生活地名はヒアリングおよび市史，村史，既往文献等を用いて採取した[16][17][18]。ヒアリング調査は2009（平成21）年9月，2010（平成22）

*株式会社フォーラムエイト　　**東京農業大学地域環境科学部

年2月，7月にかけて居住者計9名に対して数度にわたり行った。事前の文献調査で整理した字名および生活地名の一覧表，大沢集落の白地図，現地の写真，公図を用い，字名と生活地名の照合を併せて行った。また地名の由来や土地利用形態およびその変化等も聞き取った。ヒアリング調査の被験者は，大沢町区長および輪島市教育委員会から紹介された50～80歳の居住者とした。

（3）生活地名の分布状況の整理

採取した生活地名の場所や範囲を地図上におとし，生活地名分布図を作成した。なお上述のヒアリング調査の結果，公図による字名は生活地名として用いられていることが確認できたため，生活地名として扱うこととした。

整理された生活地名の場所を含む大沢集落全域において，2010(平成22)年2月～9月にかけて，土地利用形態および利用状況，水系の有無，道の有無，植生を現地踏査により確認した。また，踏査結果と生活地名分布図を照らし合わせ，生活地名の場所と範囲の整合性を確認した。

（4）集落における空間構造の特徴把握

生活地名の場所の地形，水系に着目して整理し，地形タイプの分類を行った。さらに生活地名の分布特徴を分析し，大沢集落における空間構造の特徴を明らかにした。

3．結果および考察

（1）生活地名の分布状況

大沢集落全域から94件の生活地名を採取した。うち生活地名の場所が確認できたのは91件であった。場所が確認できなかった3件は，公簿に記載されているが場所が特定できないものだった。ヒアリング調査からも，「相続はしたが利用していないので場所が分からない」という事例が確認された。

さらに現地踏査および文献調査により，農地，家屋，神社仏閣，河川，道等の現況を確認しベースマップを作成した。その上にヒアリング調査から得た生活地名の場所と範囲をおとし，生活地名分布図を作成した(図－1)。生活地名分布図内にはヒアリング調査で得た生活地名をカタカナ表記で，公図の字名と生活地名が一致した生活地名は漢字表記で記した。

（2）生活地名の分布特徴

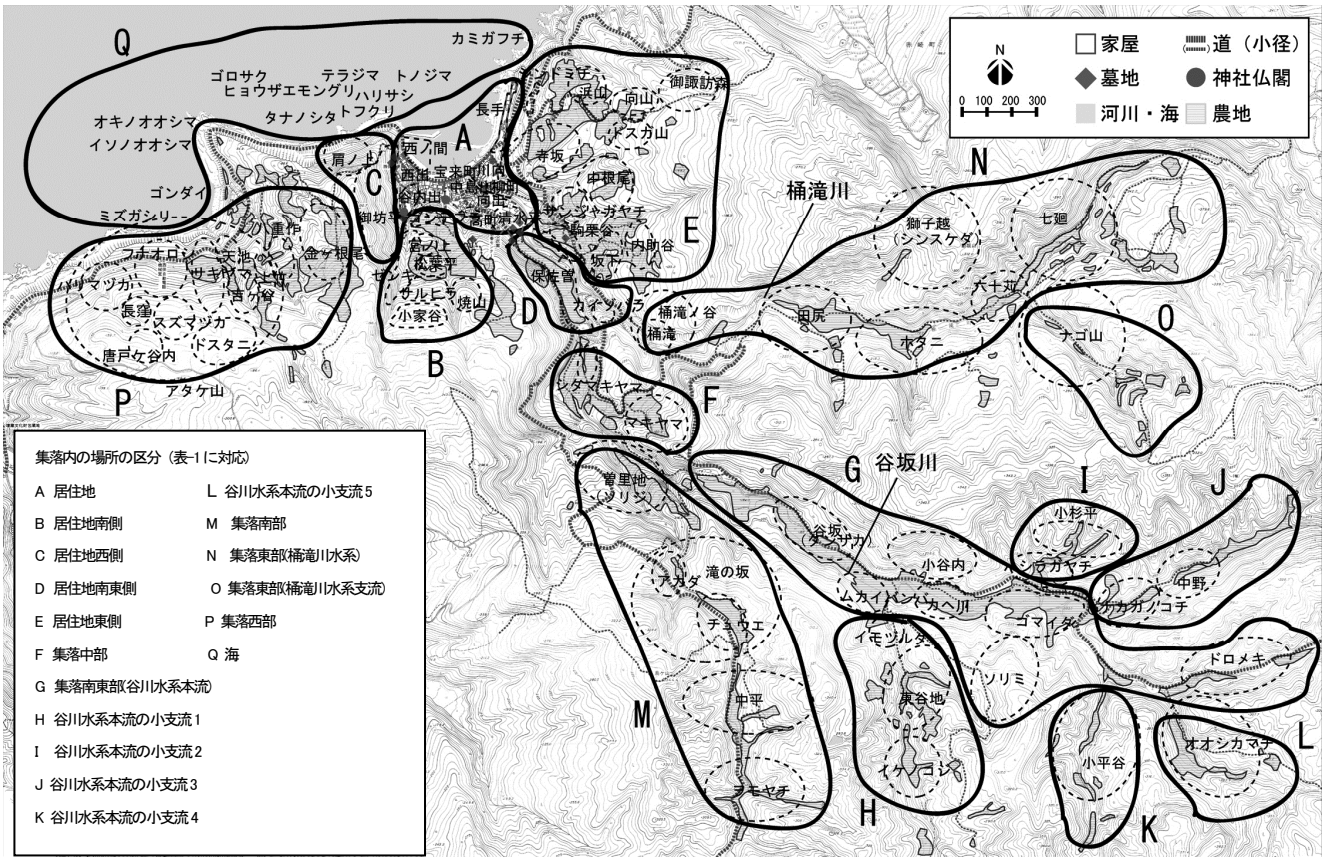
生活地名の場所における地形，水系を整理・分類した。その結果，①地形の両端に水系がある斜面地(以下，タイプⅠ)，②一方向の斜面地(以下，タイプⅡ)，③二面の斜面地に囲まれた幅100m以上の平坦地(以下，タイプⅢ)，④二面または三面を斜面に挟まれた狭小な谷津(以下，タイプⅣ)，⑤海に面した平坦地(以下，タイプⅤ)，⑥海(以下，タイプⅥ)の6つの地形タイプに分類された(図－2)。次に生活地名を整理し，地形タイプ，斜面方向，土地利用形態，居住地からの距離等から，生活地名の分布特徴を分析した(表－1)。

1)居住地周辺の生活地名

居住地周辺の生活地名は，居住地南側(図－1，表－1中の記号B)，居住地東側(図－1，表－1中の記号E)で多く確認された。

居住地南側の生活地名は，居住地から1km以内の位置のタイプⅠ上に段畑が形成された場所に多く存在する。居住地からのアクセス路は，人ひとり通れる程度の急な未舗装路しか存在しない。以前は水田利用が行われていたが，現在は畑地への転用および耕作放棄が進んでいる。居住地近傍の後背山ながら居住地との境には標高差50m以上のゴンデブラと呼ばれる急斜面地が存在し，居住地内から農地は見えない。「以前はゴンデブラがニガタケ(メダケ)の供給地だった」，「水田があった頃は農地端のミヤノウエにイナハザ(ハザギ)が並び，海風でコメを乾燥させていた」等のヒアリング結果から土地利用形態の変化が読み取れた。平坦地を表すタイラ，ヒラを含む生活地名がみられ，畑地や山林の土地利用が行われている。なお，字名と生活地名が一致する傾向にあった。

一方，居住地東側の生活地名は，居住地から1km強までの位置



図－1　大沢集落の生活地名分布図

表－1　大沢集落における生活地名の分布特徴

集落内の場所/生活地名	地形タイプ	斜面方向	土地利用形態	ニガタケ供給地	集落内からの距離(km)	漢字表記
居住地内【A】 海岸沿い						
1 ホウライチョウ	V		宅地		－	宝来町
4 ニシデ	V		宅地		0.05	西出
5 ヤチデ	V		宅地		0.2	谷内出
6 ナカジマデ	V		宅地		0.05	中島出
7 カワムカイ	V		宅地		0.3	川向
居住地内【A】 西側　浜・海						
2 ニシノマ	V		港		0.2	西ノ間
居住地内【A】 東側						
3 ムカイデ	V					向出
8 ナガテ	V		宅地		0.4	長手
7 カワムカイ	V		宅地		0.3	川向
9 ヤナギマチ	V		宅地		0.35	柳町
10 シミズダイラ	V		宅地		0.5	清水平
11 タカマチ	V		宅地		0.25	高町
6 ナカジマデ	V		宅地		0.05	中島出
居住地南側【B】						
12 ゴンデブラ	Ⅱ	北斜面	水田→畑地		0.45	
13 ミヤノウエ	Ⅰ	北斜面	水田→畑地		0.55	宮ノ上
14 マツバダイラ	Ⅰ	北斜面	水田→畑地		0.65	松葉平
15 サルヒラ	Ⅰ	北斜面	山林		0.75	猿平
16 コヤダニ	Ⅰ	北斜面	山林		0.85	小家谷
17 ゼンキ	Ⅳ	東・西斜面	水田→畑地		0.8	善喜
18 ヤキヤマ	Ⅱ	北斜面	山林		0.8	焼山
居住地西側【C】						
19 ゴボウダイラ	Ⅱ	東斜面	山林		0.25	御坊平
20 カタノウエ	Ⅱ	北斜面	山林		0.6	肩ノ上
居住地南東側【D】						
21 ホサソ	Ⅲ	北東・南西斜面	畑地、水田		0.5	保佐曽
22 カイゾバラ	Ⅰ	北西斜面	山林		1.05	海曽原
居住地東側【E】						
23 テラサカ	Ⅱ	南西斜面	宅地、農地		0.55	寺坂
24 シンドミチ	Ⅱ	西斜面	道路		0.6	
25 ハマヤマ	Ⅱ	西斜面	畑地、山林		0.75	浜山
26 ムコウヤマ	Ⅱ	西斜面	畑地、山林		1.05	向山
27 オスワノモリ	Ⅱ	北西斜面	山林		1.35	御諏訪森
28 ドスガヤマ	Ⅱ	西斜面	畑地、山林		1.05	
29 サンジャガヤチ	Ⅰ	西斜面	畑地	※	0.6	
30 ナカネオ	Ⅰ	西斜面	畑地、山林	※	0.8	中根尾
31 コマグリダニ	Ⅱ	西斜面	畑地		0.75	駒栗谷
32 サカシタ	Ⅱ	西斜面	畑地		1	坂下
33 サエスケ	Ⅱ	西斜面	畑地、山林		1.1	内助谷
集落中部【F】						
34 シタマキヤマ	Ⅱ	北西斜面	水田		1.2	下牧山
35 マキヤマ	Ⅱ	北西斜面	水田		1.5	牧山
集落南東部(谷坂川水系本流)【G】						
36 タンザカ	Ⅲ	南西・北西斜面	水田		2.3	谷坂
37 ムカイバンバ	Ⅲ	南西・北西斜面	水田		2.8	向馬場
38 カヘガワ	Ⅲ	北・南斜面	水田		3	
39 コヤチ	Ⅱ	南斜面	山林		3	小谷内
40 ゴマイダ	Ⅲ	北・南斜面	水田		3.55	
41 ソリミ	Ⅱ	北斜面	山林		3.4	
42 ドロメキ		北・南西斜面	水田・山林		4.5	

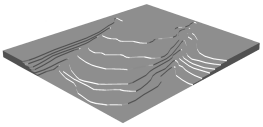
集落内の場所/生活地名	地形タイプ	斜面方向	土地利用形態	ニガタケ供給地	集落内からの距離(km)	漢字表記
谷坂川水系本流の小支流1【H】						
43 イモヅルダ	Ⅳ	北東・南西斜面	水田		3.1	
44 ヒガシヤチ	Ⅳ	東・西・南西斜面	水田、山林		3.4	東谷内
45 イケノコジ	Ⅳ	西・東斜面	水田		4.3	池ノコジ
谷坂川水系本流の小支流2【I】						
46 ハシラガヤチ	Ⅳ	南東・南・西斜面	水田、山林		3.55	
47 コスギダイラ	Ⅳ	南東・南西斜面	水田		3.7	小杉平
谷坂川水系本流の支流3【J】						
48 ナカガノコチ	Ⅳ	北・南斜面	水田、山林		3.9	
49 ナカノ	Ⅳ	北西・南斜面	水田、山林		4.2	中野
谷坂川水系本流の小支流4【K】						
50 コヒラダニ	Ⅳ	東・西斜面	水田、山林		4.2	小平谷
谷坂川水系本流の小支流5【L】						
51 オオシカマチ	Ⅳ	南西・北東斜面	水田、山林		4.5	大鹿町
集落南部(谷坂川水系支流)【M】						
52 ソリジ	Ⅰ	北西斜面	水田、山林		1.7	曽里地
53 タキノサカ						滝ノ坂
54 アカダ	Ⅳ	東・西斜面	水田、山林		2.55	
55 チュウエ	Ⅲ	北東・南西斜面			2.85	
56 ナカヒラ	Ⅳ	東・西斜面	水田、山林		3.2	中平
57 ヲモヤチ	Ⅳ	西・東・北西斜面	水田、山林		3.5	
集落東部(桶滝川水系)【N】						
58 オケタキ	Ⅳ	南西・北西斜面	滝		1.3	桶滝
59 オケタキノタニ	Ⅳ	南西・北西斜面	山林	※	1.3	
60 タジリ	Ⅲ	南・北斜面	水田、山林	※	2.7	田尻
61 ホタニ	Ⅲ	南・北斜面	水田、山林	※	3.3	保谷
62 ムソガリ	Ⅲ	南・北斜面	水田、山林	※	3.8	六十苅
63 シンスケダ	Ⅱ	南西斜面	山林		4	獅子越
64 ナナマワリ	Ⅳ	北西・南東斜面	水田、山林	※	4.1	七廻
集落東部(桶滝川水系小支流)【O】						
65 ナゴヤマ	Ⅳ	北東・南西斜面	水田、山林		4.15	ナゴ山
集落西部【P】						
67 コガネオ	Ⅱ	西斜面	畑、山林	※	0.9	金ヶ根尾
68 アタケヤマ				※		アタケ山
69 ヤエサク	Ⅱ	西斜面	畑、山林	※	1.4	八重作
70 ウエタケ	Ⅳ	北斜面	畑、山林	※	1.55	上竹
71 アマイケ	Ⅳ	北斜面	畑、山林	※	1.75	天池
72 ヨシガダニ	Ⅳ	北斜面	畑、山林	※	1.6	吉ヶ谷
73 サキヤマ	Ⅱ	北斜面	畑、山林	※	1.8	
74 ドスタニ	Ⅱ	北斜面	山林		2	度数谷
75 フナオロシ	Ⅱ	北斜面	山林		2	舟卸シ
76 スズマヅカ	Ⅱ	北斜面	山林		2.1	錫摩塚
77 カラトガヤチ	Ⅱ	北斜面	山林		2.3	唐戸ヶ谷内
78 ナガクボ	Ⅱ	北斜面	山林		2.2	長窪
79 ハリマヅカ	Ⅱ	北斜面	山林		2.2	

海【Q】　Ⅵ

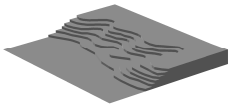
80 カミガフチ　87 ゴロサク
81 トノジマ　88 ゴンダイ
82 トフクリ　89 ミズガシリ
83 ハリサシ　90 オキノオオシマ
84 デラジマ　91 イソノオオシマ
85 タナノシタ
86 ヒョウザエモングリ

凡例

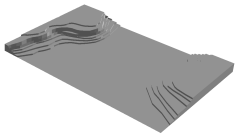
→　：土地利用の変化
※　：間垣材料のニガタケ供給地あり
居住地内からの距離：居住地中心の宝来町から生活地名までの旧道や里道を使用した時の距離
【】内記号：図－1生活地名分布図内の記号に対応



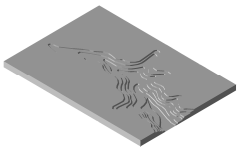
地形モデルⅠ
(地形両側に水系がある斜面)



地形モデルⅡ
(一方向の斜面地)



地形モデルⅢ
(二面の斜面地に囲まれた幅100m以上の平坦地)



地形モデルⅣ
(二面または三面を斜面に挟まれた狭小な谷津)

※地形モデルⅤ(海に面した平坦地)，地形モデルⅥ(海)は平坦地の模式図化であるため省略した。

図－2　地形タイプの模式図

の西斜面，タイプⅡ上に形成された段畑に多くみられた。居住地からアスファルト舗装が施された農道が整備されアクセスが容易であり，耕作放棄地も少ない。また居住地内から眺望できる農地である。斜面上部にヤマ，オが付く生活地名が複数存在し，畑地と山林の土地利用が行われている。斜面下部には，タニ，ヤチを含む生活地名がみられ畑地利用がなされている。同一水系を含有するサンジャガヤチ，ナカオネはニガタケ供給地であった。

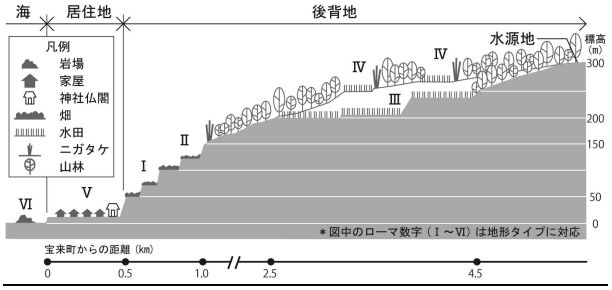
なお居住地南東側(図－1, 表－1 中の記号 D)と集落中部(図－1, 表－1 中の記号 F)でも，数は少ないが現在も耕作が続けられている農地で生活地名が確認された。居住地南東側の農地はタイプⅠとタイプⅢに畑が立地し，斜面や山腹を指すとされるソを含む生活地名が存在する。また，集落中部の農地は比較的急なタイプⅡ上に棚田が作られ，ヤマが付く生活地名が名付けられていた。

2)集落南東部・集落南部の生活地名

集落南東部の生活地名は，谷坂川水系本流周辺(図－1，表－1 中の記号 G)と谷坂川水系本流小支流周辺(図－1, 表－1 中の記号 H,I,I,J,K,L) に，集落南部の生活地名は谷坂川水系支流周辺(図－1，表－1 中の M)に分布していた。

谷坂川水系本流周辺の生活地名は，居住地から 2～3km の位置のタイプⅢ上に緩やかな棚田が形成されている場所に多くみられた。居住地からの距離および標高差があるものの，急峻な斜面地が多い大沢集落において比較的まとまった平坦地が確保できる場所である。居住地から農道が整備されており，水田の耕作状態は比較的良好である。谷坂川沿いには，タニ，カワ等を含む生活地名が確認され，ムカイバンバ，ゴマイダ等，場所の位置関係や状態を表した生活地名もみられた。また字名と一致しない生活地名が多く確認された。

谷坂川水系本流小支流周辺および谷坂川水系支流周辺の生活地



図－3　大沢集落の空間構造（模式図）

表－2　大沢集落の空間構造の特徴

空間構造区分	地形タイプ	主な生業	土地利用形態	土地利用に関連した特徴的な要素	生活地名の特徴
海	Ⅵ	漁業	魚場	岩場，浜，港	大半の岩場に命名
居住地	Ⅴ		居住	間垣 神社仏閣	形成過程に由来 位置関係に由来
後背地	Ⅰ	農業	畑　（以前は水田）	段畑，水系	緩斜面：タイラ，ヒラ
			山林		
	Ⅱ	農業	山林	ﾆｶﾞﾀｹ(ﾒﾀﾞｹ)供給地	斜面上部：ヤマ，オ
			畑	段畑，水系	斜面下部：タニ，ヤチ
	Ⅲ	農業	水田	棚田，水系	河川沿い：タニ，カワ 位置関係や状態に由来
	Ⅳ	農業	水田	極小棚田，水系 ﾆｶﾞﾀｹ(ﾒﾀﾞｹ)供給地	山林＋水田の範囲に 命名：ヤチ，コチ，タニ

名は，居住地から 3～4 ㎞の位置のタイプⅣ上に形成された山林と小規模な棚田がある場所で確認された。狭小な谷津地形上の山林と水田を合わせた範囲に生活地名が付けられる特徴がみられ，ヤチ，コチ，タニが付く生活地名が多く存在する。また旧道整備のための赤土を確保した場所にはアカダという土地の利用内容を示す生活地名がみられた。

3)集落東部の生活地名

集落東部の生活地名は，桶滝川水系周辺(図－1，表－1 中の記号 N，O)に分布していた。集落から 3～4㎞ に位置し，タイプⅢまたはタイプⅣ上に立地した水田と山林による構成の比較的広い範囲に対して命名されている。字名と生活地名が一致する傾向にあった。また多くの生活地名内にニガタケ(メダケ)供給地が存在していた。

4)集落西部の生活地名

集落西部(図－1，表－1 中の記号 P)の生活地名は，海沿いの斜面地に多くみられた。居住地から 1～2㎞ の位置に分布し，北斜面のタイプⅡまたはタイプⅣ上に形成された山林，または山林と畑の場所に存在する。海沿いの県道が整備されるまでは，居住地西側の尾根を越える旧道によってアクセスされていた。大沢集落内で一番大きなニガタケ(メダケ)供給地があり，アタケヤマという総称がニガタケ(メダケ)供給地を指すこともある。

5)その他の生活地名

居住地(図－1, 表－1 中の記号 A)はタイプⅤ上の平坦地に立地しており，集落の形成由来や位置関係に依拠した生活地名が存在する。字名と生活地名が全て一致していた。海域(図－1，表－1 中の記号 Q)の生活地名は，海岸近傍の岩場に対して名付けられたものであった。岩ノリ漁等の関係から大小関わらず岩場の大半に生活地名を付ける必要があったとされる。

（3）集落における空間構造の特徴

生活地名の分布特徴を基に，特に地形タイプと土地利用形態の関係を鑑みながら，空間構造の模式化を行った(図－3，表－2)。

大沢集落における空間構造は，海，居住地，後背地に大別された。海と後背地は半農半漁の生業との関係が深く，漁業に関係する場所や農業に関係する場所に対して生活地名がつけられていた。生活地名は地形形状に由来すると考えられるものが多く確認された。限られた土地を地形タイプに応じて，段畑，棚田と細かく使い分ける農業や漁業に関する土地利用のあり方が，地形タイプを原単位とした生活地名として表出し，大沢集落における空間構造の骨格を形成したと推察される。

一方，山林単独につけられた生活地名は居住地南側，居住地西側および集落西部の一部にみられるだけであった。林業は大沢集落における主幹生業であったことはない。また大沢集落の厳しい地形や季節風・積雪等の自然条件により生活を営む家屋は間垣に囲われたタイプⅤ上の居住地内のみに立地する。同様に共同施設や信仰空間も居住地内に集約され，集落全体に分布していない。これらの状況が林業や信仰に関連する生活地名の少なさに表れていると考えられた。

4．まとめ

本研究では大沢集落における生活地名を採取し，地形タイプと土地利用形態との関係性を基に生活地名の分布特徴を整理した上で，大沢集落の空間構造を明らかにした。

最後に文化的景観保全調査において生活地名を景観単位の区分指標として活用する可能性を検討する。本対象地では，文化的景観の特徴である生業・生活を規定する自然環境（地形，水系）と土地利用形態の関係が生活地名の分布に基づく集落の空間構造に顕在化していた。このような文化的景観地の場合，生活地名を土地利用区分単位と捉え，生活地名の集積を景観単位として用いることで，既存の景観単位設定事例に比べてより詳細な景観単位検討が行えると考える。

補注及び引用文献

1) UNESCO(2008):Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention(WHC.08/01 January 2008)

2) 篠原修(2009)：時代を画す文化的景観の概念とその展開：ランドスケープ研究，73(1)

3) 平成 17 年 4 月 26 日付け 17 庁財第 33 号の文化庁文化財部長通知「文化財保護法の一部改正に伴う制度の運用方針について」の「第 1 重要文化的景観の選定制度の運用について」にうち，「2 文化的景観保存計画の策定にあたっての留意事項」

4) 文化庁：<http://www.bunka.go.jp/bunkazai/shoukai/keikan.html>，2011．12.12 閲覧

5) 長崎県：< http://www.pref.nagasaki.jp/koho/hodo/upfile/20110520115255.pdf>，2011．12. 12 閲覧

6) 奈良文化財研究所(2011):四万十川流域　文化的景観研究，奈良文化財研究所学報第 89 冊，7-52

7) 山崎寿一，重村力(1993)：生活地名からみた中久保集落の空間意識の構成：日本建築学会計画系論文報告集：第 442 号，133-141

8) 笹谷康之他(1990)：小地名相互の位置関係に基づいた村落空間講師の研究：造園雑誌，53(5)，293-298

9) 笹谷康之他(1985)：農村集落の民族空間構成に関する研究：造園雑誌，48(5)，318-323

10) 寺門征男(1990)：空間言語（地景名）からみた集落空間の組織化と構成現地について：日本建築学会計画系論文集，第 416，55-65

11) 重村力他(1983)：ある集落の研究＃6,7：日本建築学会大会学術講演梗概集，1939-1942

12) 文化庁文化財部記念物課(2003)：農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究(報告)

13) 荒井歩他(2009)：石川県輪島市大沢地区・上大沢地区における間垣の特徴について：造園技術報告集，№.5，140-143

14) 荒井歩他(2011)：石川県輪島市大沢・上大沢における間垣管理の工程：造園技術報告集，№.6，94-97

15) 輪島市文化課(2006)：平成 17 年度文化的景観・民族技術調査報告書「輪島」：石川県輪島市，53-99

16) 輪島市地籍図「大沢町」

17) 伊藤和吉(1960)：西保村史：輪島市西保公民館，516pp

18) 輪島市史編纂専門委員会(1976)：輪島市史：輪島市，937pp